

## 令和 3 年度 第 1 回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA 部会 議事要旨

日 時：令和 3 年 6 月 24 日（木） 16：00～17：00

場 所：WEB 会議

構 成 員：17 名

出 席 者：12 名

百名伸之(琉大病院小児科)、銘苺桂子(琉大病院産婦人科)、森島聡子(琉大病院第二内科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センターCL S)、新屋敷誠(森川特別支援学校)、城間敏生(代理 奥間あさみ 沖縄県教育庁保健体育課)、玉城学(代理 濱元伸 沖縄県教育庁県立学校教育課)、朝倉義崇(中部病院血液・腫瘍内科)、當山美奈子(琉大病院看護部)、伊波善之(沖縄県保健医療部健康長寿課)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：5 名

比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCL S)、浜田聡(琉大病院小児科)、當銘保則(琉大病院整形外科)、大城一郁(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、

陪 席 者：2 名

有賀 拓郎(診療情報管理センター)

石川 千穂(がんセンター事務)

**【報告事項】**

1. 令和 2 年度 第 4 回小児・AYA 部会 議事要旨(3 月 1 1 日)  
百名委員より、資料 1 に基づき説明があり、承認された。
2. 令和 2 年度 第 3 回「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG  
議事要旨(1 2 月 1 7 日)  
増田委員より、資料 2 に基づき、説明があり承認された。
3. 小児・AYA 部会 委員一覧  
百名委員より、今年度委員名簿の説明と、新委員からの自己紹介があった。
4. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧  
銘苺委員より、資料 4 に基づき、委員に変更はないことが説明された。
5. 沖縄県共通の妊孕性温存の説明文書と「がんと生殖カウンセリング連携シート」の周知状況について  
銘苺委員より、資料 5 に基づき説明があった。妊孕性温存療法研修会を開催した、県内の

各病院で共通説明部文書や、がんと生殖カウンセリング連携シートを電子カルテに掲載してもらう等、周知については着々と進んでいるとのことだった。

6. 沖縄県内の各医療機関での研修会について

新型コロナで延期が続いているが、少しずつ進めているとのことだった。また、WEB開催も検討しているとのことだった。

7. 「妊孕性温存療法」に対する医療補助について

資料のリーフレットに基づき、伊波委員より妊孕性温存療法の助成について説明があった。指定医療機関の要件を満たしているのは、現状、県内では琉大病院のみとなっている、正式に指定医療機関に決定された際はWEB等で案内する予定とのことだった。百名委員より、卵巣保存等の臨床研究も補助の対象になるのか確認があり、エビデンスの蓄積という意味で患者データと交換で補助がおりるとのことだった。また、保存のための維持費は患者負担になるとのことだった。増田委員より、国からの補助ということで男女43歳未満というしほりがあるが、がん対策上及び倫理上は妊孕性について説明する義務があると言われているので、43歳という年齢で切らずに説明は必要であるとの補足があった。銘苅委員より、説明を行う際、年齢制限はしておらず、県内の研修会でもそのように周知している、がん治療の担当医からの説明は難しいと思われるので、生殖医療の方へ紹介頂き説明を行っているとのことだった。

8. 小児・AYA がん保護者向けチラシについて

事務局から、県内の各学校(幼・小・中・高・特別支援学校・大学・専門学校)と、琉大病院外来、南部センター・こども医療センター外来、森川院内学級に配布されたことが報告された。

9. 第1回小児・AYA 世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法に関する検討会

10. 第2回小児・AYA 世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法に関する検討会

報告事項9及び10については、報告事項7『「妊孕性温存療法」に対する医療補助について』で説明があったように、県に下りてくる前の検討会ということで、各自確認するようにとのことだった。

【協議事項】

1. 今年度の部会長・副部会長の選出及び部会委員の追加について

今年度の委員について、資料11の委員名簿の通り承認された。

2. 小児がん拠点病院のQI評価について

百名委員より、琉大病院は昨年、小児がん拠点病院である九大病院の連携病院として指定され、QI評価(がん診療の質の評価)に資料12のように回答したと説明があった。

琉大の課題は以下の通り。

- ・小児がん認定外科医が不在。【指標2】(資格を取得予定の医師がいるとのことだった。)

- ・チャイルド・ライフ・スペシャリスト等、小児支援の職種が不在。【指標 8】
- ・小児がん相談員専門研修修了者がまだいない【指標 9】（受講予定の職員はいるとのこと）
- ・小児科からの病理診断提出率は、ほぼ 100%だが、小児科以外(18 歳～20 歳)の科からの提出率が低いため、全体で 33.3%にとどまっている。【指標 11】

今後も定期的に評価されることになるので、南部医療センター・こども医療センターの状況も把握しながら、努力が必要な部分に関して、小児・AYA部会でも検討課題として協議出来ればとのことだった。

### 3. ロジックモデルと今年度の部会活動計画について

「ライフステージに応じたがん対策」分野に関するロジックモデルの素案が増田委員より提示された。ひと月後にロジックモデルだけで1時間程度ディスカッションを行うこととなった。

### 4. 「沖縄がんと生殖医療ネットワーク」について

銘苅委員より、現在はこのネットワークは小児・AYA部会に移行しているとの説明があった。

### 5. 今後の妊孕性温存療法 WG の在り方について

銘苅委員より、現状、各拠点病院と直接連携をとれているとの説明があった。会議開催については必要が出てきた際に開催していくとのことだった。

### 6. 次回開催日程について

後日、事務局より候補日を挙げて、メールでアンケートを行い決定することとなった。